

令和3年度 全国学校保健・安全研究大会 復伝

- 1 期 日 令和3年10月28日(木)、29日(金)
- 2 開催地 岡山県岡山市 (開催方法…ウェブ会議システム Zoomによるライブ配信及び録画配信)
- 3 主 催 文部科学省、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、
(公財)日本学校保健会、岡山県学校保健会
- 4 主 題 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進～他の健康で安全な生活の実現に向けて、主体的に取り組むことができる子供の育成～
- 5 内 容
【1日目】10月28日(木)
全体会…開会式、表彰式、記念講演
【2日目】10月29日(金)
課題別研究講義…10課題について、課題別に研究発表、研究協議、指導助言及び講義を行う。1課題につき、3つの研究内容の発表。
◇参加課題
　〈第3課題〉 心の健康 (白土、小石参加)
　〈第5課題〉 歯・口の健康づくり (小石参加)
　〈第8課題〉 学校事故防止対策 (白土参加)
- 6 大会報告
(1) 記念講演
【演題】新型コロナウイルス感染症の現状と今後—我々はこの感染症とどのように向き合っていくのか
【講師】二木 芳人
昭和大学医学部 内科学講座
臨床感染症学部門 客員教授
①世界の現状、日本の現状
②感染症の収束と規制緩和
③国内の感染収束に向けて必要な項目と課題

④世界のパンデミック終息はいつ、どのように？

(2) 第3課題 心の健康

【研究発表】

ア 「災害発生時の生徒の心のケアの充実を目指して」

岡山県倉敷市立玉島西中学校 養護教諭 宮田 祥枝

- ・平成30年7月豪雨の経験から、災害後ストレス反応に対する取組について。
- ・生徒に対するこまめな関わりや状態把握、長期的な経過観察が重要である。
- ・職員のメンタルヘルスについても対策されていた。

イ 「心の健康づくりを目指した教育活動の展開と環境整備等の進め方について～生徒の経験を支える環境づくり～」

香川県立丸亀高等学校 養護教諭 尾藤 方美

- ・全日制、定時制、通信制課程それぞれの特徴や学年に応じた心の健康づくりについて。
- ・関係者が連携し組織的な取組を行うことで健康問題を早期に発見できる体制が強化された。
- ・日頃の授業や体験活動の中に、健康づくりに関する取組を仕組んでいた。

ウ 「安心安全な居場所のある『明日も行きたい』と思う学校づくり～チームで連携して支援する～」

高知県土佐市立高岡第一小学校 養護教諭 元吉 直子

- ・教員が「学び」「心」「健康」の3つの研究チームを組織し、家庭、地域、関係機関との連携を図り、チームで心の健康づくりを推進している。
- ・不登校担当教員の配置、校内支援委員会、支援チーム会により、子どもの問題を気兼ねなく語り合える場を設けている。

【講義】

「学校教育とメンタルヘルスリテラシー」

東京都立松沢病院 院長 水野 雅文

①現代的健康課題：メンタルヘルスの背景

②治療の遅れがもたらすもの

③学習指導要領と教科書の変遷

④諸外国の状況

⑤学校保健と地域包括ケア

◇精神疾患について重要なポイント

- ・誰でも罹りうること
- ・生活習慣も影響すること（特に睡眠、スマホ・ゲーム依存にも適宜触れる）
- ・早めが肝心！一人で抱え込まずに相談

(3) 第5課題 歯・口の健康づくり

【研究発表】

ア 「健康課題に向き合い、自己解決できる生徒の育成～歯・口の健康づくりの取組を通して～」

鹿児島県立曾於高等学校 養護教諭 實方 めぐみ

- ・「歯に関するアンケート」や、歯科検診結果を受けて全生徒に養護教諭の個別指導を実施している。
- ・保健委員会による各クラスへの指導、近隣小学校での指導を実施している。
- ・保健委員の生徒がアイディアを出し、リーフレットや歯科グッズ、歯科キャラクターの作成を行っている。
- ・取組により、歯の健康への意識化につながり、5年間治療率が上昇し続けている。

イ 「健康的な生活習慣を身に付ける児童を育てる 歯・口の健康づくりを通して」

広島県東広島市立八本松小学校 養護教諭 天満 弘美

- ・学校歯科医や衛生士の協力のもと、学級活動における集団指導、全校朝会での指導、個別の歯みがき指導を実施。
- ・保護者への啓発として、学校歯科医による講演会の開催や歯みがき通信の発行を行っている。
- ・児童生徒会活動として、歯みがきキャラクターの募集やポスター掲示等で啓発を行っている。
- ・学校における歯みがき環境（手洗い場）の整備。
- ・学校歯科医を講師として、教職員研修を実施。

ウ 「生涯にわたり主体的に歯・口の健康づくりに取り組む児童生徒の育成～学校・家庭・地域・関係機関との協働を通して～」

岡山県立岡山西支援学校 養護教諭 森 美恵子

- ・学校歯科医や歯科衛生専門学校生による保健指導の実施。
- ・歯科検診時に、模擬歯科医院として受診場面を設定し、「自ら行う」ことを意識して学習する。
- ・「歯と口の健康教育全体計画」を策定し、1年間の見通しを持った指導を行っている。
- ・高学年児童が「歯みがきレンジャー」となり、他学年の児童へ啓発活動を行っている。
- ・学習したワークシートや歯科指導時のカルテ等を綴じた「歯と口の健康カルテ」を全員に作成している。
- ・学校歯科医から保護者への講話の実施。

【講義】

「健康は 歯から 口から 笑顔から

『新しい生活様式』に沿った学校での歯・口の健康づくりの進め方」

公益財団法人日本学校歯科医会 副会長 柄植 紳平

- ・いつ、誰が、どこで、誰に、どう、伝えたら最も効果的か？
心～「歯は大切だ」と思う気持ち
知～歯・口に関する知識
技～歯を守る技術
- ・年齢別にみると、う歯のある者の割合は増加していく。GOを指導して健康な歯肉に導くことが重要。
- ・疾病発見型→健康志向型へ・・・管理重視型→教育重視型へ
- ・学校における「新しい生活様式」・・・基本的な感染症対策の継続
口の中の衛生を保つことは、ウイルス感染症予防の基本
- ・歯科保健をもう一步進めるためには・・・指導者自身が楽しむこと
 ①自分が楽しいことを考える
 ②子どもの知的好奇心をくすぐる
 ③できることから始める（評価・記録）
 ④他のことに関連付けて

(4) 第8課題 学校事故防止対策

【研究発表】

- ア 「日本スポーツ振興センターの災害共済給付データを活用した安全対策について」

独立行政法人日本スポーツ振興センター学校安全部
安全支援課長 田中 文人

○ 災害共済給付

年間約96万件、約177億円（令和元年度）。内訳として、①手や指②足③眼
令和元年度は約95%にあたる1,647万人が加入している。

○ 給付の現状

近年の少子化の影響により、加入者数は減少している。障害見舞金給付についての内訳は①眼②醜状③歯である。

○ 成果物

- ・スポーツ事故防止ハンドブック
- ・スポーツ事故対応ハンドブック
- ・骨折事故防止パンフレット「なくそう！骨折事故」 学校安全webよりダウ
ンロード可。

イ 「事件や事故、災害の検証に基づいた再発防止対策の在り方について～那須雪崩事故を教訓とした学校安全のための取組」
栃木県教育委員会事務局学校安全課 主幹 石嶋 幸夫

○ 那須雪崩事故の概要

平成29年3月27日、栃木県高等学校体育連盟主催の春山安全登山講習会の開催中に雪崩が発生し、参加していた7名の生徒と1名の引率教諭が死亡した。また、重症者7名、中等症者3名、軽症者33名の大きな事故であった。那須温泉ファミリースキー場ゲレンデ付近の歩行訓練中、樹林帯の上部まで進んだときに、表層雪崩に遭遇した。

○ 那須雪崩事故検証委員会

①事実を可能な限り明らかにする ②事実の背後にある事故の発生要因等を整理する ③事故再発防止策を提言する これらを主な目的として、7回の委員会の開催と「基本調査の確認」、「追加調査」、「関係者の聞き取り調査」、「現地調査」を経て報告書を作成した。

【事故発生の要因】

- ・高体連の計画全体のマネジメント及び危機管理意識の欠如。
伝統行事であったことにより、危機意識が低下していた（無線機のバッテ
リ切れなど）。
- ・登山計画審査会を通さないシステムだった。
- ・雪崩の危険に関する理解不足
- ・歩行訓練は登山ではないので安全との認識

○ 再発防止策

- ① 学校教育活動における安全管理の徹底
- ② 県高等学校体育連盟等に対する指導・助言
- ③ 登山活動における安全確保のためのチェック機能の充実
- ④ 安全な登山活動のための知識・技能の習得
- ⑤ 被害者への対応

ウ 「学校の授業（スキー教室）中のスキー事故の検証及び再発防止の取組について～検証委員会による検証及び提言を受けて～」

広島県山県郡北広島町立芸北中学校 校長 河野 通之

○ 事故の概要

冬季の積雪が多くスキー業が盛んである。入学時には全員が滑ることができ。教職員よりも児童の方がスキー技術が高く、例年、外部講師に児童への指導を依頼し、スキー教室を実施していた。

体育科の授業として3年生から6年生までの児童が、4グループに分かれてスキー教室を開始した。

該当児童が上級者コース（22°）を滑走中に、スノーボーダーと衝突し倒れた。この状況は誰も見ておらず、コース下に偶然いたパトロール隊が気づき、対応した。児童はドクターヘリで搬送されたが死亡した。

○ 事故後の対応

校長・外部指導者・担任は、搬送先の病院へ向かった。引率していた教頭と養護教諭は警察の聴取に応じた。他の児童や引率教員はバスで帰校した。

学校では、帰校した児童から事故までの動きや状況を聞き取った。しかし、子どもへの聞き取りは大変難しかった。その他、保護者説明会、マスコミ対応などについて教育長からの指示に従った。

○ 事故検証委員会

6回の委員会と現地調査、聞き取り調査を行った。検証委員会については、原則公開とするが、プライバシーに関する内容や委員長が会議に諮って必要と認めた場合は、非公開として会議を行った。

○ 検証委員会の結論

【直接要因】 ①当該児童の速度の出し過ぎ ②相手のスノーボーダーの安全確認不十分

【間接要因】 ①指導者の指導方法（フリー滑走をさせていた） ②スキー場管理者の安全対策

【講義】

「災害共済給付や検証から見た事件や事故、災害の未然防止と発生時の対応」

学校安全教育研究所 顧問 明海大学 客員教授 戸田 芳雄

○ 近年の動向

児童の安全を巡る状況は、学校、家庭、地域において、登下校時の交通事故、誘拐など様々な事故災害や凶悪な犯罪が多発するとともに、学校行事等の教育活動、体育・スポーツ活動での類似の死亡・障害事故が繰り返し発生している。これらの経験や教訓を踏まえ、「いつでもどこでも起こりうる。そして、想定を超えた重大な被害をもたらす可能性がある。」という視点から、マンネリと根拠のない正常化の偏見を廃し、これまでの危機管理や安全対策、防災を含む安全教育を改善する必要がある。

○ 安全文化の創造を目指す

学校事故の防止と安全教育充実のためには、生きる力を育むことを目指して、安全管理・危機管理と一体的に教育活動全体を通して自他の生命、その基盤となる人格や人権を尊重し、経済や効率でなく安全を最優先するような心を耕し「安全文化」を創造していくことが大切である。

7. 所感

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴う生活の変化は、子どもたちの心身に様々な影響を与えていますが、その影響の大きさはまだ顕在化していない部分も多いと推察します。感染症問題にかかわらず、こういった危機的状況に直面したとき、日頃から学校職員が、子どもや家庭、地域、関係機関とのつながりを密にしているかどうかで、対応の質が変わってくると思います。今回拝聴した研究発表においても、子どもの実態を丁寧に把握することや、関係者と連携することの重要性を改めて感じました。

養護教諭として、どうしたら子どもが自ら健康的な生活を送ろうとする力をつけられるか、その方法に悩むことがあります。今後も、他校の様々な取組を参考にさせていただきながら、自己研鑽をすすめて参りたいと思います。そして、子ども自身の思いやアイディアを大切にし、子どもと共に大人も学び、子どもの力を伸ばす教育を実現したいです。

この度は、貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

